

# 第96回全国高校サッカー選手権大会



第96回全国高等学校サッカー選手権大会開会式 滝二の誇りを胸に堂々と行進

## 全国選手権

3年 稲田 丈太郎

昨年の成績を超えるということを目指した96回の選手権はベスト32で終わってしまいました。今年のチームは新人戦とインターハイを取れず、とても苦しみましたがこの選手権の舞台では今年の一文字の輪のようにみんなで一丸となって滝二らしく戦えたと思います。振り返って改めて選手権は特別な舞台で、そういう特別な舞台だから試合に出ている人出していない人を含めて多くの人がたくさんの経験をして成長できるのだと感じました。また、全国の様々なチームを見てやはり滝二には滝二しかできない試合や滝二にしか出せない雰囲気があると確信しました。他のチームがしていないことをするからこそできることがあると思いました。ベスト32という結果は滝二としても兵庫県代表としても満足のいく成績ではないので、次のチームにはベスト4以上の成績を残して欲しいと思います。

最後になりましたが、輪のチームを応援していただきありがとうございました。これからも滝二の応援をよろしくお願いします。

### 全国高校サッカー選手権試合結果

◎12月31日(土) 1回戦

滝川二 2 (  $\begin{matrix} 2 & - & 0 \\ 0 & - & 0 \end{matrix}$  ) 0 実践学園高  
(稲田、福嶋)

◎1月2日(月) 2回戦

滝川二 2 (  $\begin{matrix} 2 & - & 1 \\ 0 & - & 2 \end{matrix}$  ) 3 帝京大可見  
(上出、廣田)

# 「タキ二」らしく

滝川第二高等学校 サッカー部監督 松岡 徹

32回生のみなさん、本当に卒業・卒部おめでとうございます。

2015年4月 32回生の高校入学と同じくサッカー部監督に就任した。32回生は、3年間楽しかったですか？辛かったですか？それとも・・・

3年間で振り返ると監督として何もしてあげられなかったと思います。ただ、32回生は稲田キャプテンを中心に昨年の夏以降、自分達で人間としてチームとして成長したのではないのでしょうか？自分自身責任を持って行動し成長できたことを監督として誇りに感じます。

新チームのスタートは、第96回全国高校サッカー選手権大会で優勝した前橋育英高校に昨年度全国高校サッカー選手権大会の準々決勝 フクダ電子アリーナ0対2で敗れてスタートした。昨年度の全国高校サッカー選手権大会の経験者が多く残ったが、すべての面で甘さがあり「何とかなる・・・」という気の緩さから県新人戦 第3位 県総体ベスト8と夏までは過去の全国選手権ベスト8の成績に甘えていた。夏終わりの県リーグ、関西学院に負けた試合から稲田キャプテンを中心に3年生に変化が起こってきたが、県リーグ1部 優勝 プリンスリーグ関西 参入戦に勝利してもなかなか自信を持ってプレーをすることができなかった。県選手権大会、初戦に勝利して3回戦神戸科学技術高校戦 後半に先制された。このまま終わってしまうかと・・・残り10分、途中出場の足立のセンターリングを福嶋が決めて同点。そのままの勢いでPK戦を制して勝利した。この試合をきっかけにチームに自信と一体感ができ、県選手権大会を制することができたと思う。第96回全国高等学校サッカー選手権大会は、初戦の東京都代表実践学園に2対0で勝利したが、2回戦岐阜県代表の帝京可児高校に2対3逆転負けで選手権大会を終えた。最後まで「澁刺と元気の出る試合をすることができた」と思います。3年生 お疲れ様でした。ありがとうございました。

これまで「タキ二」サッカー部は、本当に多くの人達に支えていただいていたと思います。これから未来の「タキ二」サッカー部として、全国各地の方々から応援してもらえるチーム、「心あるチーム」を目指したいと思います。故平尾誠二さんの言葉の中に、伝統の継承とは以前からあるものに否定形をつけて、新しいものを創造すること、破壊から新たな創造を生み出すこと。個性を活かすために、それにあった新しい事を模索していく。状況を変えるには、自分が変わる、変えていくしかないとありました。未来の「タキ二」サッカー部として、新たな一歩を踏み出していきます。「タキ二」らしく



## 兵庫県高校サッカー選手権試合結果

◎10月15日(日) 2回戦

滝川二 3 - 0 神戸高校  
(稲田、井上、小山)

◎10月28日(土) 3回戦

滝川二 1 - 1 神戸科学技術高校  
(福嶋)  
(PK)  
(4-2)

◎11月3日(金・祝) 準々決勝

滝川二 2 - 1 県立西宮高校  
(上出、稲田)

◎11月5日(日) 準決勝

滝川二 1 (  $\begin{matrix} 0-0 \\ 1-0 \end{matrix}$  ) 0 神戸弘陵学園  
(長野)

◎11月12日(日) 決勝

滝川二 1 (  $\begin{matrix} 0-0 \\ 0-0 \\ \text{延長} \\ 1-0 \\ 0-0 \end{matrix}$  ) 0 関西学院高等学校  
(井上)

## 全国高校サッカー選手権大会兵庫予選

3年 朴 光 薫

今年のチームは新人戦、インターハイと優勝することができず、必ず選手権は優勝して2年連続出場しようと意気込んでいました。

初戦から強豪ばかりでどの試合もけっして楽ではなく、先制を許し後半に追いつきPKで勝ったり、逆転したり、延長を制したりとしんどい試合が多かったけどそれをのりこえることができました。その理由として一つあげるとしたら、やはり、まとまりだと僕は思います。ピッチに立っている11人だけでなく、ベンチの選手、ベンチ外の選手、メンバー外の選手、そしてスタッフ、父兄のみなさん。選手権期間を通して「輪」になったと思います。選手権メンバーが頑張るのはもちろんのこと、何よりメンバー外の選手が本当に頑張ってくれました。悔しいはずなのに、ピッチに立ちたいはずなのにそれを堪えてチームの勝利のために必死に応援してくれて、全力でサポートしてくれました。それはスタッフ、父兄も同じです。そういうまとまりの強さが、滝川第二サッカー部の持ち味、強味だと改めて感じることのできた全国選手権兵庫予選でした。



いざ、決戦!



ゴールー! !



よし、いこ!

# 選手権を終えて

滝川第二高等学校 サッカー部顧問 巽 柚 里

3年生の皆さん。一つの「輪」となり、必死に闘う姿は本当にかっこよかったです。その姿を間近で見られたことを嬉しく思います。3年生と関わる中で発見したことがあります。一つは、何かを成し遂げようと必死にもがいているとき人は輝いて見えるということ。また、その姿を見た人に大きなパワーを与えるということ。自分も、皆さんのように他人にパワーを与えられる人間になりたいと思います。お互い頑張りましょうね！

1・2年生の皆さん、新チームが始まりましたね。選手権の時に感じた熱い気持ちと、皆さんで決めた目標を忘れないよう、一瞬一瞬を大切にしながら残りの時間を過ごしてください。私も何かの形で皆さんの力になりたいと思っています。辛いことや苦しいことは、一生懸命生きていればたくさんありますが、その状況がずっと続くことは決してありません。むしろ自分次第で、マイナスの状況をプラスに変えることだってできます。また、どうしても投げやりな気持ちが続くときは、思い出してください。高校サッカーをできる時間は限られていること。3年生が言っていたように、3年間はすぐに過ぎてしまうということ。自分の軸をしっかり持ち、後悔しない高校生活を送って下さいね。何かあったらいつでも相談してください。ずっと応援しています。

最後になりましたが、保護者の皆様、教員の方々、OBの皆様、マスコミの方々、宿泊先のスタッフの方々、その他応援して下さいましたすべての皆さま。選手やスタッフにたくさんの力を下さり、本当にありがとうございました。選手権期間中何度も、自分たちがたくさんの方々を支えられていることを実感しました。その力があってから、選手もスタッフも最後まで全力でやりきることができたのだと思います。皆様に愛されるようなチームであり続けられるよう、選手スタッフ共々精進して参りますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



# 〇〇 自分の夢へ向かってGO!! 〇〇

32回生の3年間の思い出を掲載します。

## 滝二らしさ

3年 稲田 丈太郎

ぼくの滝二での3年間はとても充実したものでした。その中でもキャプテンをやらせていただいた3年生での1年間は特に充実した時間を過ごせました。その中で特に印象に残っている事が一つあります。それは選手権の全国大会前の事です。取材に来てくださった方々の中のある方が僕たちのシュート練習の様子を見て滝二は伸び伸びサッカーしてて楽しそうだねと言ってくれました。他のどのチームにもない雰囲気を感じたそうです。1年を通して多くの遠征に行きましたが全国にある強豪校の中で滝二のように声を出してアップするチームはありません。だから他と違うことをするし、高校生で声出して行こうとか盛り上げて行こうとか少し恥ずかしいと思う時もありました。でも1年間を通して思った事は滝二は元気よくやる事がとても大事だと思いました。他のチームは淡々とアップするかもしれないけど滝二には黒田先生が掲げたモットーに沿ったスタイルがあると思います。他のチームがしていないことをするからこそ滝二にしか出せない雰囲気、できない試合ができるんだと思います。全員が声を出していい雰囲気で心のこもったプレー、試合をすることが滝二らしさだとぼくは考えます。だから他のチームと同じことをするのではなく、滝二らしい部分に自信を持って滝二にしか出せない雰囲気を作ってほしいと思います。今年のチームは新チームが始まって夏途中まですごく受け身なところがあったと思います。雰囲気がいいところは良かったけど自分に甘かったところも多かったと思います。だからどんな時も滝二らしくということをまず大事にそして、前向きに、1年を通して頑張ってくださいです。そして今年こそ埼玉で勝つという目標を達成して欲しいです。

最後になりましたが、輪のチームを応援していただいてありがとうございました。これからも滝二をよろしくお願いします。

## 最後までやりきった滝二での3年間

3年 葭 大河

三年間お世話になりました。僕は、入学前からたくさんのことを考えてしまい、滝二でやっていくのか心配でした。でも、いざ入学してみると優しい先輩方や、32回生のみんながいてとても楽しく充実した三年間を過ごすことができました。1年のときには、膝をけがしてしまい4カ月間もの間サッカーができなくなるということもあり、全く県リーグ、公式戦に出場する機会がありませんでした。けがが治り新チームが始まると同時に県リーグ2部で試合に使ってもらえるようになりました。この時の2部のずっと一緒に戦ってきたメンバーにはとても感謝しています。特に3年生の方たちには、僕たち後輩を引っ張ってくださり共に戦ってきたことが今の自分により影響を与えてくれていると思っています。県リーグ2部最終節では、3年生のおかげで優勝することができたことは、滝二の3年間で強く印象に残っています。最上級生となり最後のインターハイ、選手権では、自分は出場することができませんでしたが、チームとして選手権で全国に出られたことは良かったです。最後に、後輩のみんなにはサッカーをしていたら、苦しくて辛いことがあると思うけど、諦めずに最後まで滝二でサッカーをやり切ってほしいと思います。本当に3年間ありがとうございました。

# 友とともに。

3年 足立 新

僕は中学校では強くないクラブチームでプレーしていて高校に入学する時は全国大会に出れるような強豪校に進学したいと考えていました。京都出身なので京都の高校も探しましたが中学校の先輩が通っていた滝二のセレクションを受けて見たらと親に勧められてセレクションを受けに行きました。正直、自分のレベルでは受かるはずがないという気持ちで受けに行きましたが、セレクションでの滝二の雰囲気を楽しそうでここでサッカーをやったら絶対に自分は伸びると思って受かるはずがないという気持ちが絶対受かってここでサッカーしたいという気持ちに変わりました。

そして無事セレクションを通過して晴れて滝二に入学することができました。京都からの進学なので親元を離れて3年間、寮生活を続けることになりました。1年の頃は同級生が徐々に試合に出てるにもかかわらず自分は全く試合に出れない日々を過ごしました。2年に1つ学年が上がってもその状況は変わらず、夏ぐらいから徐々に試合に絡めるようになったけど、思うような結果は残せず1、2年は満足のいく年ではありませんでした。

僕の転機となったのは2年生の時の選手権期間のBチームでの活動でした。オーシャンと練習試合、応援の繰り返しでクリスマスから年明けまで約2週間の遠征では黒田先生の下、だいぶ身体的にも精神的にもつらくて思うようなプレーができない中、黒田先生が『自分が調子いいとき、うまく行く時には誰だって頑張る。うまくいかないとき、苦しい時に頑張れるやつがチームにとって必要とされる選手』とミーティングで言われた時に僕の中には凄く自分に当てはまって心に響きました。2年の時はスタンドから選手権の舞台を経験したけど1年後は絶対ピッチに立って選手権に帰ってくると誓って新チームをスタートさせました。新人戦の初戦、芦屋学園で長田高校との試合、試合前に監督からこの試合は3年だけで行くと言われました。後半ラスト15分に僕はピッチに送り出されました。僕にとっては初めてのトップチームでのプレーでこんなチャンスはないと思い自分のできるプレーを精一杯やって得点はできなかったけどチームは勝利することができました。ここでのプレーを監督に評価されたのか、ここがずっとBチームだった僕がトップチームでプレーするきっかけとなりました。自分達の力不足もあり、新人戦は優勝できず、インハイに向けてチームは始動しインハイではメンバーに入りながらも大会前の強化合宿で怪我し一試合も出ずにベンチから県西戦の敗北を見ていました。負けた瞬間は涙も出ずに終わってしまったのですが、その理由を考えると、大会までの期間チームとしても個人としても本気ではやっていなかったし勝てる練習はしてこなかったのと自分達の甘さがあったからでした。未だ無冠の僕たちには県リーグと選手権しかなくて、シーズン通して結果を残していた県リーグでは首位で最終戦、三田学園という去年と同じ形でプリンス昇格戦をかけた試合を戦いました。幸先よく先制して、その勢いのまま2-0で勝ち、プリンス昇格戦では大阪学院をPKでくだしプリンス昇格を決めました。この試合で勢いをつけたチームは選手権県予選では接戦をものにし順調に勝ち進み決勝では延長戦の末1-0で関学に勝ち見事に全国への切符を手にしたのですが、その試合では僕は出場機会が無く嬉しい反面、悔しい思いもありました。なので、全国大会までの1ヶ月ちょっとでアピールしてスタメンの座を奪おうとしていた頃11月23日、大阪桐蔭との練習試合で右膝前十字靭帯断裂の大怪我を負ってしまい僕の全国の舞台でプレーするという夢は絶たれました。本当に悔しかった。監督とも相談してメンバーに入れてない選手がいる中でメンバーのままでいさしてくれるということで、みんなと一緒に選手県を戦いました。試合前の練習や試合を外から見る日々が続いて正直楽しくはなかったけど、チームの雰囲気を崩さないように明るく振舞ってチームのためにできることをやりました。チームは目標にしていた埼スタには届かず負けてしまいましたが、みんなと過ごしたあの期間は自分の人生にとって大きな財産になるはずです。

3年になってからの1年間本当に多くの試合に絡ませてもらってやっと滝二でサッカーができていく感じがして本当に楽しかったし成長したし幸せだったなど感じています。32回生の仲間と監督を含めたスタッフの皆さんには感謝しています。3年間ありがとうございました！

# 県ではなく、全国で戦えるチームに！

3年 井上 颯人

僕は、中学の頃は徳島県の中体連でプレーしていました。全国大会など出たこともなかった僕が、滝川第二で10番を背負って全国の舞台に立つなんてあの頃は自分も含め、誰も想像していなかったと思います。それを、全て自分の実力だ!と考えていた時期もありました。けど今は、ずっと応援してくれた両親をはじめ、いろんな方々に本当に感謝しています。

その感謝を込めて、少しでも今後の滝二のためになればと思います、僕が初めて経験した全国大会で感じたことを書きたいと思います。

僕が全国大会で感じたことは「チームの脆さ」でした。何か想定外のことがおきるとすぐに慌ててしまい、自分達で解決できず脆く崩れていってしまう。それがもろに出たのが帝京大可児の試合だったと思います。ピッチ内で起きた問題をピッチ内で早く解決する力が必要だと感じました。でも、それが出来ているときもあって、選手権の兵庫県大会はそれが出来ていたと思います。試合をしていて、常にコミュニケーションがとれていたしチームが一つになっていました。そういう状態はいい状態だと思います。だから負ける気もしませんでした。

つまり、僕らの代はチームとして浮き沈みがめっちゃ激しかったと思います。だから、調子が良ければめっちゃ強いし、悪ければコロっと負けてしまうような感じです。そのチームの調子が不安定な原因は、1つの目標に向かって全員が同じ方向に向くのが遅かったから、滝二が本当のチームとして完成するのが遅かったからだとはぼくは思います。もしかしたら、最後まで未完成だったかもしれないし、完成した出来が良くなかったのかもしれない。どっちにしても、埼玉に立つチームにはなれませんでした。僕らだって勝つためにたくさんミーティングしたり苦しいことやしんどいこともいっぱいやってきました。でも全国の強豪校も同じように、それかそれ以上に何に対してもシビアにやっているんだなど痛感しました。その基準を知るためにはやっぱり夏にはチームがまとまって、インターハイには出ないといけないと思います。夏、負けて焦りの中での最後の選手権はチームは勝手にまとまっていくけど、それでは全国の雰囲気もわからない。県を勝つにはそれでいいけど、全国で勝つためには本当に基準を上げなければいけないし、基準の高さを知らないといけないと思いました。

県大会を夏と冬、二回勝つのは本当に難しいと思うけど、前橋育英や流経、青森山田はしっかり夏冬、両方出ているので、後輩たちにもそういうチームになってもらいたいです。今年からプリンスも始まってくると思うので、頑張ってください!

最後に、僕は徳島から出て兵庫県の滝川第二というチームでプレーするという選択をして本当に良かったと思っています。32回生みんなのことも、可愛い後輩たちのことも大好きです。ありがとうございます。

# 3年間を振り返って

3年 菊川 愛貴

この3年間は自分が満足するような時間にする事ができませんでした。今でも思い返すと悔しい思いは込み上げてくるけれど、それが自分の芯となって行くと思います。悔いは残っているけれど、ここでの経験を活かすために次のステージで頑張りたいです。また、滝二での生活はたくさんの人と関わることができ、たくさんのことを学び、たくさんの思い出ができました。それは、自分自身の成長に繋がったと思うし、僕にとっての宝物になりました。特に最期の1年間はもう1度大学でもサッカーをしたいと思えるようになった時間でした。感謝の気持ちでいっぱいです。特に僕は廣瀬先生、中尾さんの下でサッカーをすることが多かったのですが、もっとやっていればよかったという思いがあるのが正直な気持ちです。もっとサッカーを含め色々なことを学びたかったです。ありがとうございました。後輩達にはもう一度「全国制覇」を成し遂げて欲しいです。力にはならないかもしれませんが、いちOBとして滝二をずっと応援しています。ありがとうございました。

# No Attack No Chance

3年 岩谷 峻太郎

僕にとって三年間を一言で表すと苦しかった三年間だと思います。

1年生の時は仕事が多く、早く後輩入ってこんかになってみんなで言い合って仕事をしたのを覚えています。

2年生になると、Aチームに入れてもらえることが増え、県リーグにもちよくちよく出してもらえました。そんな中で、「中東の笛」と県リーグの試合中に審判に言ってしまい選手権メンバーに漏れ、応援団長兼Bチームキャプテンとして2年生の冬を過ごしました。

自分たちの代になると新人戦が始まりました。新人戦の準決勝では僕のプレーから失点をして負けました。あのワンプレーは何回も悔やみました。ワンプレーの怖さをそこで知りました。そこから全く上手いかず、サッカーに夢中になることができない日々が続きました。そのままの流れでインターハイが始まりました。僕は出ることはないだろうと思っていました。そんな中で長田戦にスタメンと言われ正直硬くなっていたし、怖さもありました。ここでプレーで見せないとこの先はないと覚悟して臨みました。そして試合になると上手く行くことが多く手応えがありました。次の県西の試合もスタメンで使ってもらえました。この時点で私立は滝二だけで、正直全国行けるだろうという雰囲気チームにあったような気がします。アップでなかなか声が出ずに試合になりました。案の定負けました。ベスト8で最後の夏が終わり、無冠で終わるぞとスタッフに言われチームが少しずつ変わっていきました。

選手権では、県大会メンバーから外れました。やっぱりなと思いました。そこからBチームでキャプテンをして、応援団長もしました。練習は3年生1人でやっていました。結構1人での練習はきつくて、みじめに思うこともありました。応援団長は正直好き好んでやっていたわけではありませんでした。でも試合が始まると全力で応援しました。それに応えてくれるかのように出ている人は全力で、出れてない3年生の分までやってくれていました。そして全国が決まって、メンバーに入れてもらえました。やっぱり嬉しかったしやってきて良かったと思いました。結局選手権のピッチ、全国のピッチに立つことはなかったけど、それとは別のいい経験ができたと思うし、成長できたかなと思います。

こうやって書いているとやっぱり3年生になってからのことが多くて、とても充実していたなと思います。そして何より、これが全てではないけど、選手権のピッチに立つか立たないかが本当に大事だと思いました。

後輩へ、、、僕はできなかったけど、後輩には目標に常に突き進んで頑張ってください。僕はなかなかこれが難しかったです。笑

「果」この一文字を胸に頑張ってください！

## ～Last football life～

3年 近藤 有悟

選手権二回戦最後に僕のサッカー人生は終わりました。大学でもサッカーをしようと思ったけど夢を叶えるために選手権を最後に本気でやるのを辞めようと思いました。周りからは続けたらとか言われたけど滝二で最高のメンバーと3年間できたから悔いはまったくありません。僕らの学年は選手権が始まる日が近くなるほどみんながとても仲良くなった気がします。今までそんなに絡んでない人も絡むようになり僕らの学年にとっても笑いが増えたと思います。選手権でメンバー外になった人もチームのために何か...っていう気持ちは見られたと思います。そこが僕たちの良いところかもしれません。1年の時でも僕らの学年は今の1、2年に比べると仲が良い方だったと思います。結局は仲悪いチームは最後チームのためにかと思えないと思います。AとBが仲悪いとかはもっとダメだと相手のチームで僕は教わりました。僕らの代の一語の「輪」という文字はとてもいい引退してからと思います。もっと自主練とかでみんなとの時間を増やせば良かったなと思います。だから、これを読んだ後輩にはみんなとの時間を大切にしてほしいと思います。

とにかく僕は滝二でサッカーできて親や監督、スタッフ、32回生に本当に感謝しています。

3年間ありがとうございました。



# 徹号の3年間

3年 岡田 虎之輔

滝川第二高校サッカー部での3年間が終わりました。

サッカー部で過ごした3年間は本当に貴重な時間で、多くのことを経験し、良い仲間に出会い、人として成長することができました。

後輩たちに伝えたいことは2つあります。

1つ目は、怪我をしないで欲しいということです。

自分は1年生の時から本当に怪我が多かったです。今でも思い返すと、あの時もっと出来ることはなかったのかと、後悔してしまいます。

外から見ていることで学ぶものももちろんあると思いますが、自分は、チャンスを逃してしまい、プレーできずもどかしかったです。そして何よりも、親に申し訳ないという思いが強くなりました。

2つ目は、選手権に負けた日にみんなの前で言ったことと同じことですが、悔しい気持ち、熱い気持ちを持ち続けて欲しいということです。走りの日が続いたり、スタッフに厳しいことを言われたりと、キツイ時は誰にでもあると思います。そんな時に、悔しかったときの気持ちを思い出して欲しいです。

選手権で負けた時、試合に出ていた、ベンチで観ていた、スタンドで応援していたと、立場は色々ありますが、みんなの中に悔しさがあって、来年は絶対に自分がやってやる、という熱い気持ちがあったはずですよ。

その気持ちをどんな時も忘れずに、継続して、普段の練習や1つ1つの行動に出して行って欲しいです。

続けることは簡単なことではありませんが、続ければ必ず結果が出ると思います。

スタッフはチームが勝つこと、みんなが上手く、強くなること、人として成長できることを考えて指導してくれていると思います。

自分、仲間、スタッフを信じて頑張ってください。応援しています。

3年間ありがとうございました。

# 本当に高校サッカーは面白い

3年 坂本 空透

まずはじめに応援してくださったOBの方々、多くのテレビ関係者、父母の会、スタッフ、チームメイト、本当にお世話になりました。多大な支援と協力があったからこそ選手権に出場することができました。ありがとうございました。

3年間は本当に早いものでした。色々な思い出や試合は生涯忘れることのできないものとなりました。

個人的には悔しい時期が多く、色々自分を模索しました。ですがいつでもサッカーを楽しめる環境が側にあるからこそ、折れずにやり切ることが出来たと思います。そして卒業された先輩方や個性の強い後輩達に日々刺激を受けながら、成長できたのも大きな鍵でした。

今引退して思うのは、本当にサッカー生活がすぐ側にあるということの素晴らしさや、サッカーで悩めることの充実感は本当に羨ましいです。

正直、僕は無駄にした日もあります。自分に甘えた日もあります。楽をした日もあります。この自分自身の甘さがプレーに出てしまったのは本当に馬鹿らしいし、親に対しても申し訳がないと思っています。やり切ることができる人間、できない人間いると思います。滝二でしか出来ない時間をどうか本当にやりきってほしいなと思います。

後輩達も不安や悩んだりすることはあると思います。ですが、多くの考えや様々な知識に触れ、自分を見つけて欲しいなと思います。そして個人だけにはならずチームの為を思って頑張ってください。楽しんで。‘できる!’

個人的な考えが多いですが、本当に『輪』のチームで良かったです。本当にありがとう。

## 滝二での成長

3年 檜野 智 哉

僕は滝二に入ってたくさんのことを学ぶことができた。サッカーの技術はもちろん、心や精神的な部分での成長もあった。最初は今までやってきた、自分の感覚だけでやって、1年の夏までは運良くAチームの試合に出れたり一緒に練習できたり、先輩とできて、とてもよかった。そこまで基礎の部分で未熟だったところもごまかせていた部分はあったけど、やっぱり練習や、試合でボロがでるし、簡単なミスが目立ってきて、キーパーの中で一番下まで落ちた。試合に出ても絶対失点するし、試合時間の少ない中で、何も出来ない試合が続いた。自信もなかったし、ボールが自分のところに来て欲しくないって思ってた。今考えると、技術もないし、出来ることも少ないから自信もできなかったし、それがプレーに繋がっていたと思う。だから、基礎技術をあげたし、少しずつプレーの幅が広がってきた。技術が上がったことよりも2年の時に試合に多く出れたことが、今の自信に繋がっていると思う。2年の時に全国大会を2度経験させてもらったことなどが今の自分がいるおかげだし、気持ちの部分でも変わった一年だったと思う。だから、1つ上の先輩には感謝しかない。たくさん経験が今の自信であったり、プレー中のメンタル面に大きく影響与えていることを改めて感じる。

自分は背も低くて、特別な特徴がある訳でもない。周りにはクラブチームから来た子が多くて、みんな上手くて、歯が立たない部分も多かった。でも、そいつらに勝つためにはどうすればいいのか、うまくなるにはどうすればいいのか、めっちゃ考えたし、ほかの人との差をつけたかった。今まで試合に出るための苦勞を知らなかったし、ライバルがいなかったから、考えることもなかったし、滝二に入って、考えてサッカーできるようになった。少しでもボールを遠くにけるためには、高く飛べるためには、多くシュートを止めるためにはどうすればいいかたくさん考えたし、悩んだ。ほかの人が余裕もてるところでも、目一杯しなくてはならなかったり、ちょっとでも自分を大きく見せてゴールを小さく見せるのか、とても難しいことだった。だから、3年間怪我が多かったし、怪我を持ちながらプレーしてた方が多かったし、それが無理してプレーしていたことに繋がっていたのかなと思う。でも、そこに後悔はないし、そうでないと自分よりすごい人とは戦えないと思う。だから、これからもこのスタイルを続けていきたい。自分の芯を曲げずにやっていきたい。

3年間で、成功も挫折もたくさんの失敗をしてきた、でも、これが自分の財産になると思うし、次のステージに必ず繋がると思う。成功を信じて、やっていきたい。

## サッカーに対する気持ち

3年 廣田 一 磨

僕はこの3年間で、サッカーがかけがえのないものなんだと実感しました。入部当初と1年の新チームになった当初(12~1月)の2回、Bチームの試合にも出れず、そして去年度の選手権1回も出れずサッカーが嫌だなど軽く挫折しました。もう試合に出れないのではないかと、もう無理だな、そう思いました。けど、そこから立ち直り、今年、選手権にもでれたのはサッカーが大好きだったからです。そして、このチームで勝ちたいと思ったからです。好きこそ物の上手なれ、この通りだと思います。サッカーが好きだからみんなやってると思います。だから頑張れると思うけれど、好きなことをやっているのだからもっと楽しまないといけないと思います。それはへらへらしたりして楽しむという訳ではなく、厳しさの中にある楽しさです。僕自身は、楽しいと思っている時ほどうまくいってました。うまくいっていたから楽しいのかもかもしれません。けど、楽しいことには変わりありません。どんなに辛く、厳しくてもその中、またはその後待っている楽しさを見つけてください。指導者の方々に色々言われることもあるけど、全て真に受けるのではなく、時には聞き流したり、自分で考え工夫したりし、自分を高めていってほしいと思います。どんな状況でも成長するために楽しめる心を持つことが大切だと感じた3年間でした。

## 引退してから気付く事。

3年 加藤 広康

サッカーしてる現役の時だからわかる事。引退したからわかる、引退しないとわからない事。どっちも絶対に大事な事に気付く事ができる。今回の文章では引退しないとわからない事を書こうと思う。それで引退する前にみんなに気付いて欲しいと思う。

僕の高校サッカーは正直とても辛かった。もちろん楽しい幸せな事も沢山あった。でもどちらかと言うと辛かった。自分の納得いく結果が全然でなかったし、でなかったから、今、本当にサッカー選手として上手くなってるのかな？レベルアップできてるのかな？中学の時の友達に置いてかれてるんじゃないか？なんて思う事もあった。だから自信なんていつになってもちっぽけな自信しか積み上げれてなかったし、それでも副キャプテンなんだからしっかりしなくちゃ、などと考えれば考えるほど空回りしていたのかなと思う。だから結果も出なかった。これが気付く前の自分。でも引退してふとした時に考えると色んな事に気付かされた。サッカーをしていてもしていなくても目の前に起こった出来事は全て自分の経験、成長に繋がると言う事。だから辛いも幸せも結局は全部幸せだと言う事。僕も試合に出ないと幸せではない！と思っていた。今でも思うし、サッカー選手としてこう考えるのは逃げてると言う事になる。でも時にはこう考える事もしてみてもいいと思う。そうして心の迷いが消えて、プレーが良くなるのならするべきだと思う。だから辛い時も辛い時を楽しむくらいの気持ちでいたら良いと思う。もう一つ、結果がでなかったのは結局自分から逃げたからなのかなと思う。僕が今まで自信を持ってやってきたサッカーを途中で曲げてしまった＝逃げてしまったのだと思う。自分を信じ続けて、どっちかではなく上手く混ぜ合わせてサッカーをしていたらサッカー選手としてもレベルアップできたし、試合にもコンスタントに出れたのかなと思う。だからみんなには自分のサッカーを絶対に信じ続けて思いっきりサッカーをして欲しい。みんながそうして思いっきりサッカーする事が出来たら絶対にみんながマッチしてくるし、そうなればいくらでも強くなれる！だから自分のプレー、サッカーに自信を持って過ごして欲しい。あとパススピードの基準はチームの立ち上げの時期に決まるから、最初から流石に強すぎるだろうぐらいのパススピードで練習をした方がいい！そうしないと公式戦の前になってもレベルがあがらない！あとチームメイトに大事にされる人になる、そして集団になる！これらが僕が引退して気付いた事。まだまだお互い色んな事に気付いて頑張ろう！これが最後の副キャプのメッセージです！最後に後輩達含め、友達、家族、スタッフの方々、学校の先生、沢山の人のおかげで沢山の貴重な経験をさせてもらった事に感謝しています。本当にありがとうございました。三送会で長く話せない分ここで書かせて頂きました(笑)

## 成長のできた三年間

3年 長野 裕次郎

僕はこの三年間で、大きく成長することができました。

僕は一年生の頃などは、私生活も、だらしなくて、気遣いなどもできなくて、本当にだめでしたが、色んな人に厳しくするところは、厳しくしていただいたり、支えてもらったので、三年間では、人として、成長することができました。

サッカーでは、壁にぶつかる事が、多くその度に心が折れそうな事があったけど、親とチームメイトに、励まされたり、応援してくれたおかげで、諦めずに頑張れました。

僕は本当に周りの人に、支えられ応援されて、ここまで来れたと思うので、感謝しかありません。これからも感謝の気持ちを、忘れずにがんばります。

三年間本当にありがとうございました。

# 初心忘るべからず

3年 辻 本 竜

この三年間を振り返ると、本当に多くのことを学びました。

まず、私生活での行動が、サッカーのプレーに大きく影響することを学びました。そして、技術よりも、気持ちの方が大切だということ学びました。

三年生の時は、チームとしては、新人戦、インターハイと落とし、選手権では、二回戦で負けてしまって、全ての大会において、昨年のチームの結果を超えることができず、物足りない一年間になってしまいました。個人としても、嬉しいことより、悔しいことや、辛いことの方が多く、何度も、挫折を味わいました。でも、そんな時に、励ましてくれたり、期待してくれたりする人がいて、本当に最後まで頑張ることができたのは、そのような人たちのおかげです。

後輩たちに伝えたいことは、「継続力」を持って、これから何事も取り組んでいってほしいということです。自分の失敗や、悔しさを、忘れずに、継続的に思い続けること。自分の決めた課題などを、継続的に挑戦し続けること。自分の夢を、継続的に追いかけて続けること。このような力があると、絶対にサッカーも上達するし、周りからも信頼される人になることができます。

それと、自分の決めたことや、自分のスタイルなどを、絶対に変えずに、貫いてください。周りとは違うからって、それに合わせる必要は全くありません。

また、これは自分も大切にしていることなのですが、サッカーをやり始めた時のような、純粋にサッカーが好きで、もっと上手くなりたいと思っていた、「初心」を忘れずに、日々頑張ってください。

今年の一文字は「果」だそうなので、後輩たちは目標を果たすことができるように、また、結果を残すことができるように、最後まで全力でプレーしてください。

# 一生の宝物

3年 朴 光 薫

本当に3年間あっという間に過ぎていきました。この3年間で多くの人に支えられました。スタッフの皆さん、ご指導ありがとうございました。多くの保護者の皆さん、いつもサポートありがとうございました。

32回生のみんな、この24人で3年間を過ごせたことは心の底からよかったです。それぞれが癖の強い個性を持つみんなと過ごした日々はとても充実したものでした。学校生活もすごい楽しかったし、何より一緒にサッカーが出来たことがとても嬉しく思います。まだまだ一緒にサッカーがしたいし、このメンバーで全国優勝したかったと今でも思います。この3年間で色々なことがあったけど、特に今年はなかなか結果が出ず、どちらかという嬉しさより悔しさの方が多かったと思います。その分このメンバーで全国選手権に出場できるとなった時は本当に嬉しかったです。

32回生のみんなありがとう。

そして家族へ、この3年間試合があるたびに観に来てくれてありがとう。すごい力になりました。オモニは朝早くから弁当を作ってくれてありがとう。アボジは朝早くから夜遅くまで仕事お疲れ様、ありがとう。

本当に感謝しかないです。

この3年間で4回も全国の舞台に連れてってもらいました。こんなに光栄なことはありません。全国の舞台は本当に最高でした。ぜひ後輩たちには全国の舞台に戻って僕達が達成できなかった目標を達成してほしいです。

32回生滝川第二高校サッカー部で本当に良かったし、誇りに思います。3年間は僕の宝物です。ありがとうございました。

# 最後の高校サッカー

3年 森田 玲司

この3年間はあっという間でした。

1年の時は練習前の準備やチームの仕事があつてとても忙しかったです。なかなか高校サッカーのスピードやフィジカルについていけませんでしたが、でも、先輩たちがいろんなことを練習や試合などで伝えてくれたことで今があると思っています。最初の1年が1番しんどかったけどとても大事な時期だったと思います。

2年になって県リーグによく出してもらえるようになって高校サッカーにも慣れてきて自分のプレーができるようになって1番成長した時期でした。最終節エストレラ姫路との試合の逆転劇は今でもしびれます。中途半端な学年でしたが、1番充実した時期で楽しかったです。

3年になってチームがまとまるためにどうしたらいいかなど様々な課題が見つかったり、あと1年しかないという気持ちがありました。

新人戦、インターハイをおとして中々勝てなくて正直きつかったです。けど、キャプテンを中心にミーティングを繰り返してみんなでまとめることができ県リーグを制してその勢いそのまま選手権を迎えることができたのがよかったと思っています。自分は全く活躍できなかった。正直悔しかったです。優勝した時はめっちゃ嬉しかったです。滝二のみんなとまだまだサッカーができることが何より嬉しかったです。選手権での応援はとても心強くて、とても感動しました。決勝戦はチームがまとまったと思いました。こういう経験はもうできないし、これからのにも活かせると思います。滝二に来て人としてとても成長することができました。滝二に来てよかったです。

スタッフにはきついことを言われる時もあったけどそれが自分のためになったと思っています。

後輩にはベスト4にいてもらいたいと思っています。応援しています。

本当にありがとうございました。

# 自分の甘さ

3年 山野 宗一郎

僕が3年間で一番感じたことは、『自分の甘さ』です。振り返ってみると、この3年間は、ほとんど悔しい思いしかありません。いい思い出といえば、2年時の選手権県大会ぐらいで、やっぱり自分が出ていない試合は素直に喜べません。選手権では県大会は出たけど全国大会はベンチという悔しい思いをしたので、3年になったら絶対に選手権は出るという思いを強く持ちました。だけど最後の選手権は1秒も出れませんでした。やっぱりどこかで何とかなるだろうという気持ちがあったから、今までせっかくチャンスがきても掴み損ねたりしていた。それに本当に気づいたのは、選手権県大会が終わってからです。死ぬ気でやらないと本当にこのまま終わってしまうという強い危機感がありました。そこからの1ヶ月間は本当に練習でも今まで以上に集中してモチベーション高くやれてたし、自分の中では充実していた。だけど、気づいたのが3年の最後では遅すぎました。キャプテンも負けた時言ってたけど、最後だけ頑張っても辿り着くところは限られてる。やっぱりチームとしていえば1年間、個人でいえば3年間本当に継続して努力できたチームが勝つし、そういう選手が最後は試合に出ると思う。

引退してから、自分の甘さに気づきました。手を抜いてたわけではないけど、もっと練習のところで必死に一生懸命に集中してやれたと思うし、毎回毎回これ以上出来ないというぐらいやらないといけない。そう考えると、自分の練習に対する姿勢は一生懸命やってたけど、それが限界ではなかった。もっとやれたと思う。そういう甘さが積み重なって最後試合に出れるか出れないかのところに影響したと思う。

3年間で学んだ自分の甘さという部分は大学での課題として克服できるようにまた次のステージで頑張りたいと思います。

# 最高の仲間たち

3年 日野 公 貴

自分は名前を知られていないチームから強豪の滝二にくることは挑戦でもありました。

今まで感じたことのないプレースピードや対人の強さ、なにかもが衝撃的でした。自分はこの中で3年間やっていけるのか、ましてや試合に出られるのか入学前は多くのことを考えていました。そして入学をし滝二の生徒、選手になりました。1年生からAチームに入れさせてもらう機会を多くもらい自分のスキルアップ、足りない部分をみつけることができました。3年生とは最後の選手権で試合に出られず負け、とても悔しかったのを覚えています。

2年生になりスタメンで試合に出場できることが多くなりました。最初はサイドハーフで出られていましたが、月日が流れていくと自分はサイドバックで試合に出ていた。

最初の頃はなんでサイドハーフで使ってくれないのか、なにがいけないのかとても不満だらけでした。ですが、自分が試合に出ていることにより、誰かが試合に出られていないと考えると自分が情けなくなりどこのポジションでも全力でやろうと決意しました。そのようなこともあり、2年生の時にはインターハイ、選手権と全国に出場することができました。初めての選手権の全国の舞台は忘れがたい経験でした。多くの人達が自分たちに注目をし、強い相手と戦いとても夢のような舞台でした。

3年生になり最高学年となりました。自分達は県内三冠、全国制覇という目標を掲げ新チームを臨もうとしました。ですが、自分達はすごく甘かった、甘すぎました。

新人戦では決定力不足やイメージミスが目立ちました。

インターハイの県西戦を振り返ると1人1人が噛み合わず、自分勝手なプレーをし、チームプレーができていなかった。そんなチームが勝てるわけもなかった。

そんなことで自分たちは滝二の看板に泥を塗ることになりました。史上最弱の代などと言われとても悔しい気持ちでいっぱいでした。そして、それを否定できないのも悔しかったです。自分達は滝二になにをしにきたのか、こんな遠い学校にきてなにをしにきたのか、そんなことを考えることが増えました。選手権はなにがなんでも全国に出場する。昨年に選手権の全国を経験していたから、余計にそのように感じた。自分たちの代である最高の舞台に行きたい、みんなでまだまだサッカーがしたい、そのように感じました。選手権予選が始まり、神戸、科技、県西、弘陵、関学と、とてもきついグループ予選でした。

自分は科技戦の後半の半分で失点プレーをしてしまいチームの指揮をさげてしまった。頭の中で、自分のひとプレーでみんなを引退させるのか、結局全国に出られずに終わるのかそのようなことを思いました。ですが、チームは新人戦、インターハイとは違いました。諦めている選手は1人もいませんでした。試合にでている人、ベンチの人、応援の人、多くの人達が自分を励まし、諦めているような雰囲気は一切ありませんでした。そこで、しょげている自分が恥ずかしくなった。前線の選手達が絶対に点をとってくれると信じ試合に再び臨みました。すると、一輝が点を取り同点になった。思わず泣きそうになった。そのまま延長に入り、延長でも決着がつかずPK戦になりました。

いっぱいPKの練習をしたから負ける気がしなかったのかもしれないが、それよりも今の自分達だから負ける気がしなかった。選手権全国出場はみんなでつかんだものでした。全国大会では帝京大可児に負けました。あの試合は圧倒的に技術の差を感じました。もっとパスを回すのと、もっと試合の流れを読んで戦い方を変えていく必要があると感じた。もっと多くのことを取り入れていくことが今後の結果にも繋がると感じました。

3年間ありがとうございました。

# 苦しかった3年間

3年 福嶋 一輝

この高校3年間は自分にとってとても意味のある大切な3年間となりました。1年生の頃はチームメイトの多くが公式戦に出場するなか自分はベンチ入りすることも出来ずに終わってしまいました。2年生になるとAチームとして行動させてもらい多くの経験をさせてもらいました。大事な試合での1点の重み、怪我の怖さ、試合に出ることができなかった1年生の頃では経験することができなかったことを経験させてもらいました。3年生になり、急に怪我をする回数が増えたこの年が自分にとって3年間のなかで1番苦しい年となりました。怪我が治り復帰してもまたすぐに怪我をして、1ヶ月後復帰してもまた怪我をしての繰り返しでした。ラスト1年しかないのに自分が思うようなプレーが出来ずとても悔しかったし、親にとっても申し訳ない気持ちでいっぱいでした。自分はこのまま終わってしまうかもしれないと半分諦めている部分もありました。そんな自分にチャンスを与えてくださったスタッフの方々にはとても感謝しています。3年生になってから怪我しかしてなかった自分を試合で使っていただきとても嬉しかったです。今後経験することがないかもしれない全国の舞台に立たせてもらったのは自分の今後の人生に大きく影響してくると思います。3年間仲間と同じ目標に向かって過ごせて本当に楽しかったです

# 3年間の総括

3年 和田 悠吾

この3年間は自分にとって大切な3年間だと思います。1年の時の僕は気弱で長期間練習を休んだ時がありました。その時はサッカーが嫌いになってしまった時です。自分の思うようなプレーができない、周りとの差に気が弱り練習を休む事で気が治ると思ってました。ですが練習を休んでも気は治らなかつたです。この時支えとなったのが親、中学時代のチームメイトが支えとなり復帰することができました。今、1年生の時を振り返ると長期間練習を休んだ事は今後忘れないです。2年生は練習を頑張ろうと決意しました。ですが2年になると怪我が多くて半年もサッカーをしてない時がありました。この時に思ったことがあって、3年になったら絶対大きな怪我をすと思うてました。そのことは周りのみんなにも話をしました。3年になってからの1年間は本当に大切だったと思います。新人戦には出れなかったのですが、県インターハイに出場させてもらって、貴重な時間だったと思いました。松岡監督が信頼してくださって僕を選んでくれたのに信頼を仇で返したことは残念な気持ちです。その後の県リーグでも僕を使ってくださって嬉しかったです。県リーグで市立尼崎との試合が僕の滝川第二高校サッカー部での最後の試合でした。2年生のときに3年になったら大きな怪我をすと思うてたことが本当に起こりました。右足腓骨骨折でした。一瞬でした。最初はそこまで悪くはないと思ってて、でも足首は曲がらない、歩くこともできない。最悪でした。病院に行き、診断され、すぐに手術となり、診断された3日後には手術でした。診察してくれた先生から申告されたのは、半年サッカー禁止でした。泣きました。なんで僕だけ。もっとみんなとサッカーしたい。と思ってました。正直、お見舞いに来てくれたみんなには申し訳ないけど、嬉しかった。けど、こんな姿で会うのは嫌でした。入院中、県リーグの試合を見に行っていたことがあって、羨ましかった。僕もはやくサッカーがしたい。みんなとサッカーしたい。と、ちょうど四中工交流会の最終日が退院の日だったので少しだけ顔を出しに行き、僕は最初行くつもりはありませんでした。行くとまた泣いてしまうからです。ですが、行くとみんな暖かく迎えてくれて気が楽になりました。みんな優しくかったです。嬉しかった。選手権でも頑張っって欲しいと思いました。仲間との絆は切れなないと思いました。この1年は忘れられない1年です。後輩のみんなに伝えたいことがあって、怪我をして欲しくないです。選手権でメンバーに入れなかったみんなは焦ってしまうことがあると思います。でも焦ると一瞬の判断ができなくなり、大きな怪我に繋がると思います。そして、1日1日大切に過ごしてください。この瞬間から今はもう訪れないから全て過去になってしまうからです。1つ1つのプレーも大切に、日々の生活も大切にしてください。この3年間はあっという間で終わりました。とても充実した毎日です。関わった人たちに感謝です。

## 後悔

3年 山本幸輝

この3年間は1日1日がとても濃いものでした。毎日、色々な事を考えました。学年が上がるにつれて、たくさんの事を考えたし、特に最後は辛い事が増えました。

人間としては、気配りの大切さを知りました。色々な所で気配りのできる人間に少し近づけたと思います。

また、四中工交流会では、今まで経験したことの無い事を経験したことにより、最強のメンタルを手に入れる事が出来ました。

日々の練習は、本気で取り組んでいたけど、全然甘いことに気づきました。3年生の夏の終わりにもっと上を見てやらないといけないと改めて思いました。しかし、とても遅すぎました。後輩は今、本気で全国優勝するために頑張っていると思います。しかし、それはまだ本気になっていません。もっと本気になれると思います。一瞬一瞬を本当に大切にして、本当にこれでいいのか、もっと出来るんじゃないか、と、自問自答し、自分を高めて頑張りたいです。

3年間滝川第二高校サッカー部として活動できて幸せでした。ありがとうございました。

## 後悔と成長そして感謝

3年 山本智也

3年間本当にありがとうございました。

自分は3年間で気配り、礼儀、準備の大切さなど様々なことを学び、1人の人として大きく成長することが出来ました。

3年間で楽しい思い出よりも悔しい思い出のほうが多かったけれど滝二でサッカー出来てよかったです。

滝二に入って1番の思い出は2年生のときの県リーグ2部の最終節、エストレラ姫路との試合です。優勝するには3点差以上で勝たないといけない試合でした。前半で1失点したけれど、後半4点取って逆転し、優勝することができたのがとても嬉しかったし、やればできるということを学びました。それまでの練習や試合では何度もやらかして体操服やビブスなどで試合をしたことは、今となってはいい思い出です。

自分は3年間のほとんどをBチームで過ごしました。それは欲や目標が他の人たちよりも足りていなかったのだと今となって思います。なので後輩のみんなには常に現状に満足せず高い目標を持ち続けて欲しいと思います。

3年間本当にありがとうございました。これからも強い滝二であり続けて下さい。応援しています。



チーム一丸。精一杯の応援！



ありがとうございました！



# 上出直人の三年間

3年 上出直人

僕はこの三年間でいろいろなことを経験させてもらいました。

入学してすぐにトップチームに入って練習や試合をさせてもらっていて、先輩も優しく、そして毎日レベルの高い中でできていて毎日が刺激的でした。そして、高校で初めての全国大会のメンバーに選んでもらいすごくいい経験をさせてもらいました。

その中でも市船との試合はこの高校三年間の中で一番思い出に残ってます。全国のレベルのすごさに驚きました。選手権では、県ベスト8で負けてしまい、すごく情けなかった。

2年生では県内3冠も取れてたくさんのいい経験ができました。選手権で前橋育英とやり、自分たちと力の差を感じ、来年は絶対これより上に行くと思った。

新チームになり、初めての大会新人戦では負けてしまい、そのあとのインターハイも負けすごく情けないと思います。

選手権前今までにないくらいチームは良い方向を向いていた。その一つとして、練習から帰るとBチームの選手が本当に魂を込めて応援の練習をしていました。それをみて本当にみんなのために勝ちたいと思った。いろんな立場の一年生、二年生、三年生がいたが一つにまとめられ、そして選手権を取れて良かったです。まとまったチームが本当に強いんだと本当に思った。

全国では埼玉スタジアムに行くと言っていたけど、いけず監督には申し訳ないと思います。

三年間を振り返って、監督やいろんな方に文句や良くない態度をとることが多かったですが、見捨てることなく何度も向き合ってくれ本当に感謝しています。

この滝川第二にきて4度の全国大会に出れ、すごく良い経験ができ感謝しています。三年間ありがとうございました。今後も滝川第二が日本のトップに行けるように頑張れ!!

# ありがとう

3年 多田紗弓

私は滝川第二でサッカー部のマネージャーがしたいという気持ちで入学しました。

しかし、入部は2年次からとなってしまう1年遅れてしまった事にとっても不安な気持ちでいっぱいでした。それでも、その不安が無かったかのようにみんなは優しく接してくれました。

洗濯や給水の用意、記録、ユニフォームの整理整頓など様々な仕事をしていく中で大変だなと思った事もありましたが、それ以上に感謝される事の喜びを学ぶことができました。マネージャーをしていく中で、みんなの笑顔を見ると自然と私も笑顔になり、また、1年次から入部できなかった分、入部してからとの生活の違いから、充実さや選手をサポートできる事に幸せを感じる毎日でした。

最後には全国大会にまで連れて行ってきて感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、2年次からでも滝川第二でサッカー部のマネージャーがしたいという夢を叶えさせてくれた両親、先生方、コーチの方々、父母会の方々、32回生、本当にありがとうございました。

32回生と過ごした毎日は私の一生の宝物です。



みんな頑張ってる



やったね。次はいよいよ全国大会

# 県リーグ・プリンスリーグ参入戦

## ◎県リーグ 試合結果

### 1部 前期

滝川二	0 - 0	三田学園
滝川二	2 - 0	神戸科学技術
滝川二	2 - 0	関学
滝川二	1 - 0	市立尼崎
滝川二	4 - 1	神戸弘陵B
滝川二	1 - 0	県立西宮
滝川二	3 - 2	エストレラ姫路
滝川二	3 - 1	ヴィッセル神戸B
滝川二	4 - 1	須磨友が丘

### 後期

滝川二	2 - 0	三田学園
滝川二	2 - 2	神戸科学技術
滝川二	0 - 2	関学
滝川二	0 - 1	市立尼崎
滝川二	3 - 0	神戸弘陵B
滝川二	3 - 0	県立西宮
滝川二	1 - 0	エストレラ姫路
滝川二	1 - 0	ヴィッセル神戸B
滝川二	7 - 1	須磨友が丘

## ◎プリンスリーグ関西参入戦 試合結果

滝川二	1 - 1	大阪学院
	PK	
	7 - 6	

## 3年 加藤 広 康

県リーグでは1年間を通して公式戦と言う練習試合とは全く違う雰囲気の戦いが出来ると言う意味でも重要だったと思う。1、2年生も1、2年生の時から公式戦を沢山経験できる事は本当に大事だと思う。チームとしては県リーグの結果がチームの状況を示していると言ってもおかしくないと思う。内容は1部、2部とも好スタートで始まった。そのままインターハイが始まった。でもインターハイで結果が出なかった。そこから県リーグも最初の頃程の勢いはなくなった。難しい試合が続いた。この頃に一番成長する事が出来たと思う。結果が出ない分勝つためにどうするか話し合いを重ね、一人一人がコミュニケーションをとるようになった。勝つためにどうしたらいいか一人一人が真剣に考えるようになった。この意識の変化がまたチームをいい流れにもって行ったのだと思う。順調に勝ち進み、去年同じ場所で負けた三田戦を乗り越えてプリンスリーグ参入戦の切符を手にした。この試合で勝てばまず一つ後輩に残せる!と意気込み、望んだ大阪学院戦。先制されてこれはきついか?と思ったとたん同点弾が入った。それから一進一退の攻防が続いてむかえたPK戦。PK戦になったら勝てるなど思っていたから少し安心して見れたもののやっぱり疲れた。それでもしっかり勝ちを掴んで、プリンスリーグ参入を決める事ができた。この参入戦で勝ちを掴んだからこそ勢いがつき、この勢いのまま選手権に望む事ができた。プリンスリーグ参入戦は勝ちを手繰り寄せる自信をつける事ができた試合だった。県リーグ、プリンスリーグ参入戦は1年通してチームを良くなるように考えさせてくれるとても良い環境でした。



県リーグ1部優勝を決めて ホットした様子の3年生



集中力を切らさずに、勝ち切るぞ!

# 四中工交流会

1年 池尾 遼乃介

今回の四中工交流会は兵庫県の三木防災公園で行われました。気温が高く凄く暑かったですが、ピッチ上でも熱い戦いが繰り広げられました。特に2日目の学年別対抗戦は、両チームそれぞれが1つとなり試合を行うことができました。

一発芸大会でもお互いの芸で選手だけでなく、スタッフ、保護者の方々も全体が笑いあうことができましたと思います。

この交流会を通してまた新たなサッカー仲間が増えました。次回は三重県で行われるので楽しみにしていきたいです。



# 浜名湖遠征

## ◎ 試合結果

滝川二 1 - 0 四中工

滝川二 0 - 0 清水桜ヶ丘

滝川二 0 - 1 前橋育英

滝川二 3 - 3 成立学園

滝川二 2 - 1 国見

滝川二 0 - 2 青森山田

3年 山本 幸輝

浜名湖カップのメンバーは、3年生が多かった。チームとしてはこの大会を優勝して、アピールしようと高いモチベーションで望んだ。また、先生からは、チームを勝たせる事ができる選手を見ていると告げられた。しかし、なかなか勝ち切る事が出来なかった。ここで決めていけば…ここを抑えていけば…といった試合が続いた。そこで、1点の重みを知った。その1点で、上に行けるか行けないかが決まるのだ。今、自分達はただの強者だ。だから、強者ではなく勝者にならないといけないと感じた。個人的には、守備の時のダウンの質や細かいポジションニング、マーキングなど守備は1人でやるものではないと強く感じた。学ぶこともたくさんあったが、結果は悔いの残る大会だった。



# 平成29年度兵庫県高校サッカー三新人大会

## ◎2回戦

滝川二 1 - 1 報徳学園  
PK  
5 - 4  
(加納)

## ◎3回戦

滝川二 7 - 0 市伊丹  
(榎谷、青田、池尾、赤瀬2、小山、加納)

## ◎準々決勝

滝川二 6 - 0 明石南  
(宮島、中森3、島、OG)

## ◎準決勝

滝川二 0 - 3 神戸弘陵

2年 榎谷 翔太

新チームになって初の公式戦。

結果として兵庫県ベスト4で負け、目標であった県内3冠の1つを取り損ねてしまいました。

原因はたくさんあるかもしれませんが、確実に言えることは自分達の今までの取り組みの甘さだと思います。

昨年から言われていた「新チームになってからの事を考えよう」という事に対して本気になって取り組めておらず、新人戦でこういった不甲斐ない結果になってしまったと思います。

しかし、1人1人の責任感、プレーの質など自分達にまだまだ足りていない所が浮き彫りになった意味のある大会になったと思います。

今大会で出た、自分達の足りていない所を次のプリンスリーグ、インターハイまでの期間で克服し、自分達の目標を達成できるようチーム一丸となり1からやっていきます。

また、プレーをするのは自分達なので監督やコーチに言われてするのはではなく、自分達の中で気付き、考え、それを表現できるように厳しさをもって普段の生活から送っていきます。

応援して下さいの方々ありがとうございました。



悔しさを忘れず次のステージへ



勝つぞ！



ナイスセーブ

# 新役員のおいさつ

## 【2018年度 父母の会 役員名簿】

会 長	多田 敦生	広 報	尾崎 功泰
	美智子		理恵
副 会 長	山田 邦裕		熊崎 良
	幸子		揚子
	北田 雅士		田中 義則
	素恵子		理江子
書 記	中島 知博	本部会計	池尾 和彦
	美澄		智子
		会計監査	井上 広美
		学年会計	中島 健公
			由美

新役員の方々、  
一年間宜しくお願いします。

## 新会長のあいさつ

新会長 34回生 多田 雅彦 父 多田 敦生

このたび父母の会会長を務めさせて頂くことになりました多田です。会長という大役に責任の重さを感じておりますが、皆様のご協力を賜りながら、全力で取り組みたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度は、プリンスリーグ昇格、全国選手権大会出場など数々の成績を残されました。本年度も先輩方が築いた伝統を受け継ぎながら、常にサッカーの楽しさを忘れず 「怯まず 驕らず 澁刺と」のスローガンのもと、ひたむきなプレー、澁刺としたプレー、滝二らしいプレーで兵庫県、そして全国を魅了してほしいと思います。

我々父母の会は、松岡監督をはじめスタッフの皆様、選手、マネージャーと一体となって全力でサポートして参ります。滝二サッカー部のために、自分たちができることを全力で「果」たし、悲願の全国制覇を！

最後になりましたが、OBの皆様、OBの父母の皆様、多くの関係者の皆様にはいつも滝二サッカー部を温かく見守っていただきありがとうございます。今後とも引き続き、御力添え頂きますようよろしくお願い致します。



# 役員を振り返って

## 父母の会会長退任にあたり

33回生 島 和暉 父 島 孝市・母 尚代

父母の会会長という大役をお受けし、早いもので一年が過ぎようとしております。

先ずは、私事で恐縮ですが、病気療養中は、選手、スタッフ、父母の会の皆様、OBの皆様には、大変ご心配とご迷惑をおかけしました事、お詫びさせていただきます。そんな中、復帰させて頂きましたのも、皆様からの変わらない温かいお声かけやお力添えがあつてのことと心より感謝しております。

今年はスタッフ陣も新しく変わり、チームがどのように変わっていくのかを心配しておりましたが、全国高校サッカー選手権大会に出場でき、良いスタートが切れたのではないのでしょうか。また、父母の会の皆様の子どもに、チームに対する熱い気持ちが、自然に生まれている様子を見ますと、それも滝二の伝統のひとつなのではないかと感じております。伝統には変わらないものも変わっていくものがございますが、『怯まず 驕らず 澁刺と』を忘れることなく、これからも滝二サッカー部を新役員の方々のもと、皆様と協力しサポートしていきたいと思っております。来年度も引き続きご協力頂きますようお願い致します。

最後になりましたが、OBの皆様、OBの父母の皆様、そしてサポーターの皆様、一年間お世話になりました。ありがとうございました。

## 全国高校サッカー選手権大会にあたりましてのご支援へのお礼

寒さ厳しい折、皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度の第96回全国高校サッカー選手権大会出場にあたり、多数の皆様より多大なるご支援とご協力ご声援を頂き、誠にありがとうございました。

1月2日に行われました2回戦で帝京大可児高校と対戦し全力を尽くしたものの2-3で敗れました。昨年以上の成績ベスト4以上を目標に掲げておりましたが、残念ながら達成されませんでした。しかし、2年連続全国高校サッカー選手権大会に出場し、1、2年生が全国を経験できたことは今後繋がるのではないのでしょうか。

皆様方から頂いた温かいご支援に心より御礼申し上げますと共に、今後ともお力添え頂きますようよろしくお願い致します。

滝川第二高等学校 サッカー部父母の会会長 島 孝市



### <編集後記>

名門『滝二サッカー部』の広報担当になってはや一年。その重責に身の引き締まる思いでスタートした事を思い出します。レンズ越しに見てきた選手たちのあの時、あの顔。莫大なデータを整理する中で見てきた一人一人の姿に、成長があり、ドラマがあり、たくさんの感動を与えて頂きました。

選手たちが、いつか滝二サッカー部を振り返って思う時、かけがえのない時間が鮮明によみがえる記録として残して頂けたら、これほど嬉しいことはありません。滝二サッカー部を応援して下さる皆様のご支援ご協力により広報活動ができたことを心から感謝いたします。

〔三年生の岩谷様、福島様、山本様はじめ、写真提供頂いた皆様ありがとうございました。〕

